

流鏑馬馬場

流鏑馬は、古代より伝わる騎射です。鶴岡八幡宮では、250メートルの馬場で毎年流鏑馬が奉納されます。馬場は、本殿につながる参道に垂直に交わっています。儀式的な装束を身にまとった射手が、馬場の東端から西端まで全速力で馬を駆けながら、馬場に沿って設置された3つの的を弓矢で狙います。流鏑馬はもともと武術であり、中世の日本では戦場で大変役立つ技でした。それが神事となり、鶴岡八幡宮では1187年から行われており、もとは武士階級の守り神であった八幡大神に奉納されました。流鏑馬を行うのは、弓馬術礼法の小笠原流の射手です。頼朝は自身に仕える武士に、弓道の訓練をさせました。小笠原流は、9月16日の格式高い神事において、流鏑馬を奉納します。流鏑馬の奉納は4月の鎌倉まつりでも行われます。その際には、別の流派である武田流が担当します。